



障害を持つ人たちが農業をしながら就労を目指す場だけにとどまらず、地域に根付いて幸せに暮らしてもらうことを目指しています。

■ PROFILE 事業類型:農業法人・B型

株式会社江口農園 代表者／江口竜左

NPO法人菜菜(さいさい) 代表者／江口達郎 役員・職員／9名

■ 事業概要

米・きゅうり・パクチー・空心菜・にんにく・アジア野菜等

就労継続支援B型事業所 身体・精神・知的

■ 農福連携をはじめたきっかけ

江口家の親類にダウン症のa氏がいた。過食で体重が増え、本人の健康問題と高齢の父親による介護負担を懸念し、達郎氏は、a氏が働ける場所をつくり、減量のためには自然の中で汗を流すことが適切と考え、農業等を行うB型事業所を開設することとなった。

■ 沿革(画期区分)

平成20年(2008) 竜左氏就農

平成24年(2012) NPO法人菜菜(さいさい)設立
(地元の名士が理事として協力)

平成25年(2013) 徐々にパクチーの売上増加 ハウス建設 増産体制を整える

平成27年(2015) 農林水産省経営局長賞受賞

平成28年(2016) 株式会社江口農園として法人化

平成30年(2018) 取引先が入荷待ちになるほどの需要増 黒ニンニク・頭芋・アジア野菜を栽培
令和2年(2020) withコロナを乗り越えるためデザイナーやSNSを活用 フォロワー4000人到達

■ 江口農園のマッチングストーリー

祖父の代から農家。竜左氏の「尊敬する祖父達と同じ農業を」という想いから、種苗会社の農業学校卒業後に20歳で就農。父・達郎氏は農協の技術指導員であったが、息子の意気込みを感じ、早期退職し就農することに。米農家だった江口親子はキュウリ栽培に着手。武雄市は日照時間が少なくキュウリ栽培は難しいとされていたが、硬質フィルム・耐候性ハウスの活用等、現在のような栽培技術確立した。

しかしながら、「かっこよく稼げる農業」をビジョンとする竜左氏は、地域ブランドとなるような希少作物等が必要ではないかと考えていた。そんな矢先に武雄市からパクチー栽培の勧めがあり、販路開拓等の支援が得られるという条件のもと挑戦することに。紆余曲折を経て、その挑戦は徐々に花開くこととなる。

一方、障害者の息子を持つ親戚からの相談をきっかけに、B型事業所・NPO法人菜菜を設立。嬉野支援学校との繋がりから実習生の受入を行うように。そして、看護師であった竜左氏の姉はかねてより社会福祉への問題意識を持っていたため、現在はNPO法人のサービス管理責任者を務めている。



NPO法人菜菜は「野菜いきいき・人いきいき」を標榜し、利用者が自立を目指して楽しく働き社会の中で大切な役割を担えるよう、農業を通じた就労の場としてパクチーの選別包装のほか近隣の直売所・スーパーで農産物販売を行なっている。また、利用者の自立を促すために、生産した野菜を使って調理を学び、自分がつくった野菜への愛着や新鮮な野菜の味、みんなで食べる喜び、を感じてもらえるよう促している。また、所内訓練の他に、施設外就労も実施。住居清掃や、一般の地域住民と一緒に野菜の収穫やハウスの除草作業も行なっている。

そして、社会経験のあるやや高齢な「身体」の利用者さんが、ダウン症や知的・精神の若い利用者さんを孫のように見守りながら仕事を教えたりフォローしたりするような、アットホームな光景も多く見られる。

■ 江口農園のマッチングポイント

1 マッチングの形態

スタッフ・利用者や関係者などと希望や適性を話し合いながら作業内容を検討。

2 その発展過程

社会経験のある「身体」の利用者さんが、若い知的・精神などの利用者さんの「師匠」になっている。

3 行政による財政的・人的支援

国や県の補助金等を活用し施設整備など。市からはパクチー栽培の斡旋を受け、販路開拓などの協力も得た。

4 農業関係団体・福祉関係団体との連携形態

農協へは出荷等を行い、定期的に情報提供などを受けている。福祉団体とは施設外就労の受け入れ等を行なっている。

5 マッチングの対象

地域:武雄市内

品目:きゅうり・パクチー・直売所販売等

利用者:身体・知的・精神等

6 コーディネーターの育成方法

職員や利用者さん達と定期的な話し合いを行い、作業内容を検討。

